

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年01月29日

計画の名称	丹波市における城下町の歴史を活かした魅力ある街なみの形成（第2期）〔(2) R3-R4/H28-R4〕												
計画の期間	令和03年度～令和04年度（2年間）									重点配分対象の該当			
交付対象	丹波市,兵庫県												
計画の目標	旧城下町という歴史的・文化資源を数多く有する地区であり、それらの資源の有効活用を図るため、アクセス道路の整備、案内看板の整備、広場整備など集客・交流機能の強化を図るとともに、歴史ある町家のまちなみの保全のための修景助成など、住民の快適性や満足度の向上、まちづくり機運を高めることで、地区住民の主体的なまちなみ形成の取り組みの継承・発展を図り、集客と生活の拠点となる魅力あるまちの実現を目指す。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	120	A	30	B	0	C	0	D	90	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		平成26年度当初	平成29年度末	令和4年度末
1	地区内の主要文化・交流施設利用者数の年間利用者数を22478人（H26年度）から30000人（令和4年度）に増加 文化・交流施設利用者数を調査	22478人	人	30000人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
丹波市における城下町の歴史を活かした魅力ある街なみの形成(第2期)〔(1) H28-R2/H28-R4〕と丹波市における城下町の歴史を活かした魅力ある街なみの形成(第2期)〔(2) R3-R4/H28-R4〕の2つの計画で1つの全体事業費、定量的指標を構成している。												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R03	R04	R05	R06	R07			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	丹波市	直接	丹波市	-	-	街なみ環境整備事業(柏原城下町周辺地区)	公園整備、水路整備、広場整備、案内看板整備等	丹波市						17	-	
	A16-002	住宅	一般	丹波市	間接	民間	-	-	街なみ環境整備事業(柏原城下町周辺地区)	修景助成、活動助成	丹波市						13	-	
												小計						30	
												合計						30	

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																				
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
備考																				
円滑化地籍整備事業	D17-001	地籍整備	一般	兵庫県	直接	丹波市	-	-	丹波市社会資本整備円滑化地籍整備事業	面積 1.13km2	丹波市						90	-		
		基幹事業（A16-001）の街なみ環境整備事業に併せ、必要な土地境界情報等を整備しておくことで、円滑な事業の推進を図る。																		
													小計					90		
													合計						90	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
丹波市（建設部都市住宅課）において、評価を実施	令和7年1月
	公表の方法
	丹波市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	歴史案内板整備、公園広場整備、修景施助成等を行うことにより、文化・交流施設利用者数を目標値に近いところまで増加させることができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	街なみ環境整備事業に併せて、対象エリアの土地境界情報を整備することができた。
特記事項（今後の方針等）	
旧城下町という歴史的なまちなみ・観光資源を継承・保全していき、引き続き文化・交流施設利用者数の増加させることにより、城下町の歴史・文化を活かしたにぎわいと交流まちを目指していく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	30000人	歴史民俗資料入館者数がコロナ禍で減少したことにより、目標値から若干減少した。
	最終実績値	29059人	